

今年の梅雨の見通し 今年度の改善事項について

令和5年6月2日
熊本地方気象台



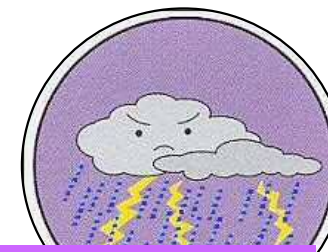
1. 今年の梅雨の見通しについて
2. 今年度の改善事項について
 - ・線状降水帯に関する情報

九州北部地方（熊本県）の一般的な暖候期の経過

(参考) 梅雨の大雨時の天気図



令和2年7月4日03時の地上天気図
(令和2年7月豪雨)



雷雨が発生しやすい

梅雨末期
大雨

4月

5月

6月

7月

8月

9月

高気圧と低気圧が
交互に通過
天気は周期変化

九州南部
梅雨入り

前線や低気圧

太平洋高気圧

台風の上陸・接近が多い

沖縄・奄美
梅雨入り

九州北部梅雨入り

平年の梅雨期間（九州北部）

梅雨入り：平年6月4日頃 梅雨明け：平年7月19日頃

熊本の6月・7月合計の降水量の平
年値は約800ミリ。

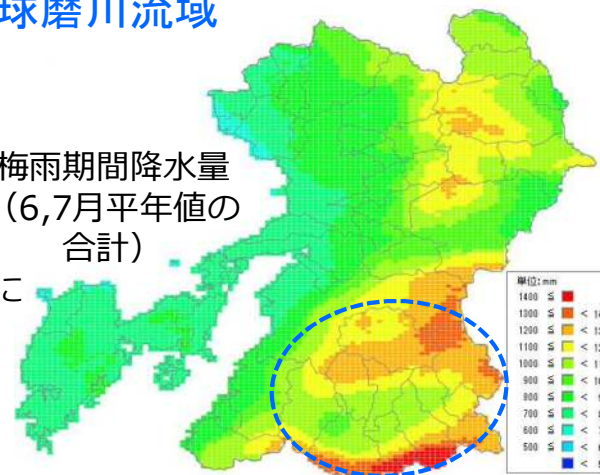
年降水量の約4割がこの時期に降る。
(年降水量約2000ミリ)

青破線円：球磨川流域

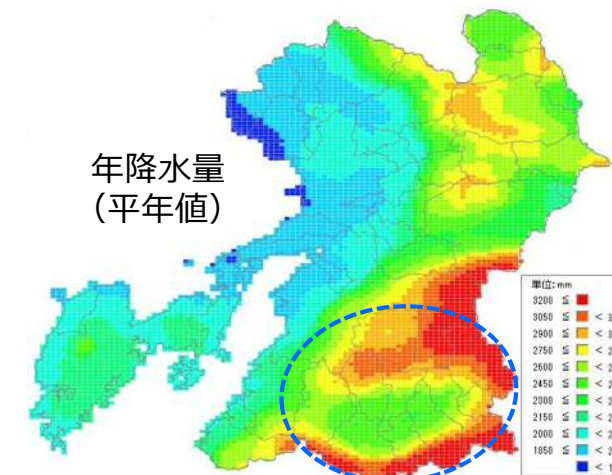
平年値（1991～2020年）による、年間降水量に占める梅雨期間（6～7月）の降水量の割合

観測地点	平年降水量（mm）		比率 %
	梅雨期間	年間	
熊本	835.3	2007.0	42
阿蘇乙姫	1250.5	3009.6	42
人吉	1051.9	2534.9	41
牛深	758.5	2109.8	36
下関	563.0	1712.3	33
福岡	548.7	1686.9	33
佐賀	693.8	1951.3	36
長崎	628.6	1894.7	33
大分	574.9	1727.0	33
宮崎	855.6	2625.5	33
鹿児島	935.1	2434.7	38

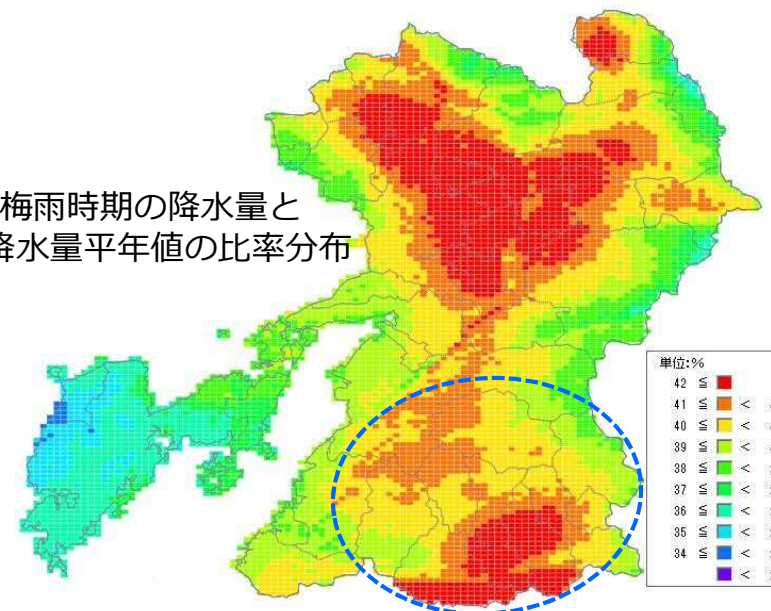
梅雨期間降水量
（6,7月平年値の
合計）



年降水量
（平年値）



梅雨時期の降水量と
年降水量平年値の比率分布

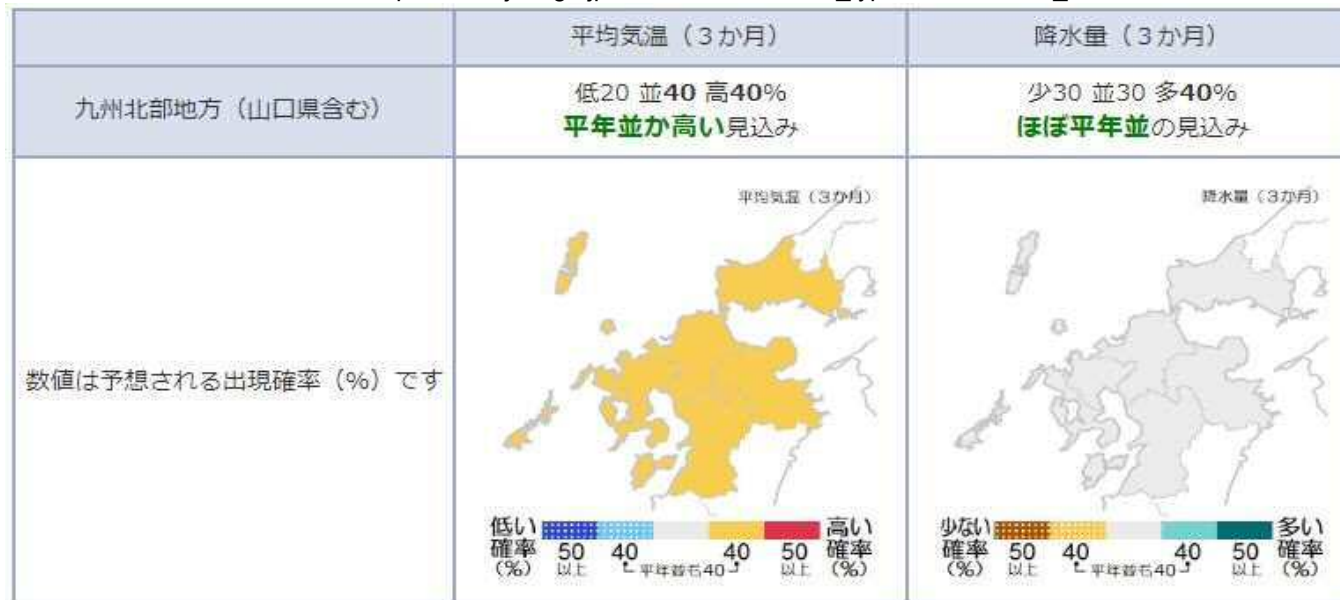


熊本県内の年間降水量は、九州山地西側の球磨地方や阿蘇地方で特に多い。
また、年間降水量に占める梅雨期間の降水量の割合が比較的大きいのが特徴。
球磨川流域の大半は年間降水量2,500～3,000ミリ以上に対し、6～7月の梅雨期間の降水量は
1,000～1,400ミリ程度で、**年間降水量の約4割以上**を占める。

今年の梅雨の見通し（6～8月の天候の見通し）

九州北部地方の3か月予報（5月23日福岡管区気象台発表）

気象庁ホームページ https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=430000&term=3month



熱中症 警戒アラート

発表時の予防行動

熱中症警戒アラートは、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境になると予想される日の前日夕方または当日早朝に都道府県ごと⁽¹⁾に発表されます。
発表されている日には、外出を控える、エアコンを使用する等の、熱中症の予防行動を積極的にとりましょう。

※北海道、鹿児島、沖縄は府県予報発表

外出はできるだけ控え、暑さを避けましょう

- 熱中症を予防するためには、暑さを避けることが最も重要です。
- 暑夜を問わず、エアコン等を使用して部屋の温度を調整しましょう。
- 不要不急の外出はできるだけ避けましょう。

熱中症のリスクが高い方に声をかけましょう

- 高齢者、子ども、持病のある方、肥満の方、障害者等は熱中症になりやすい方です。これらの熱中症のリスクが高い方には、身近な方から、夜間を含むエアコンの使用やこまめな水分補給等を行うよう、声をかけましょう。

より詳しい情報は…
気象庁 <https://www.wbgp.mgo.jp/>
気象庁 <https://www.jma.go.jp/jma/ishou/know/sorashi/netshu.html>

環境省 熱中症 検索

向こう3か月の予報のポイント（6月～8月）

- ◆向こう3か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、平年並か高いでしょう。
- ◆向こう3か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みです。

月別の天候

	降水量 06月	降水量 07月	降水量 08月
九州北部地方（山口県含む）	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み

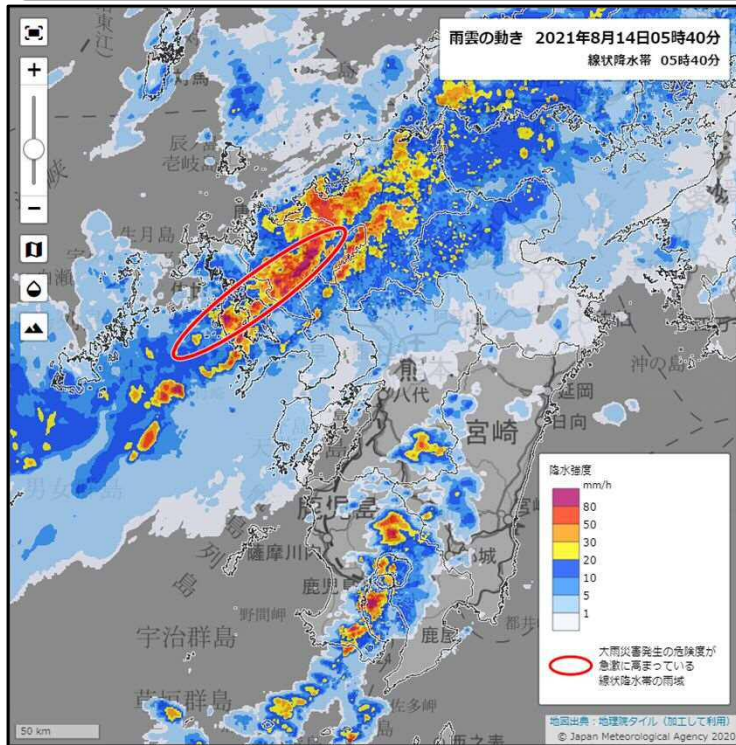
6月	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
7月	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
8月	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。



1. 今年の梅雨の見通しについて

2. 今年度の改善事項について
・線状降水帯に関する情報

■ 令和3年6月 顕著な大雨に関する気象情報



「線状降水帯」というキーワードを使った顕著な大雨への注意喚起を開始

命に危険が及ぶ○○災害や○○による災害発生の危険度が急激に高まっています。

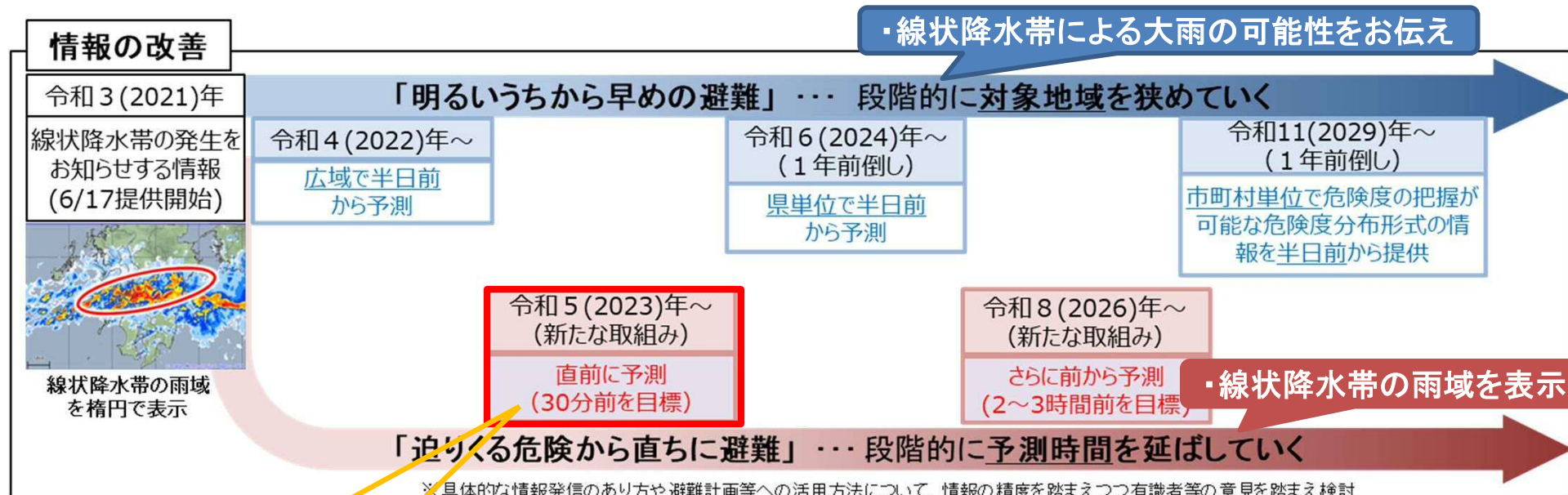
○ 大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域

■ 令和4年6月 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ

線状降水帯による大雨発生の可能性が高い場合に、複数の県にまたがる広域を対象に、線状降水帯による大雨となる可能性を半日程度前から気象情報において呼びかける改善を実施。

○○地方では、○○にかけて線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。

線状降水帯に関する情報（今年度の改善取組）



「顕著な大雨に関する気象情報」は、現在は発表基準を実況で満たした場合に発表しています。

5月25日以降は、予測技術を活用し、線状降水帯による大雨の危機感を少しでも早く伝えることを目指し、これまでより最大で30分程度早くお伝えします。

【変更となる情報】

1. 「雨雲の動き」と「今後の雨」（気象庁HP）

予測で基準に達した場合は地図上で大まかな場所を赤楕円（破線）で囲って表示します。

2. 発表条件を満たした場合の事例の掲載（気象庁HP）

実況、予測で発表条件を満たした場合の事例（過去1年分）を気象庁HPに掲載します。